

学校 番号	37	学校名	小諸高等学校
----------	----	-----	--------

## 平成30年度学校評議員活用状況報告書

第 3 回学校評議員会 【平成31年 2月21日（木）実施】

### 1 実施概要

- 時間 評議員会 15:45～17:00
- 会場 本校大会議室
- 出席者 評議員5名、職員13名
- 次第
  - 1 学校長挨拶
  - 2 学校からの説明  
(本年度の教育活動全般について、学校評価、教務、進路指導、生徒指導、生徒会、PTA活動、音楽科、各学年について)
  - 3 質疑、討論
  - 4 まとめ

### 2 今回の実施に当たって工夫したこと

- 評議員による学校評価をいただくため、今年度の取り組みや生徒の様子について学校からの説明を丁寧に行った。
- 会議資料には、各係からの報告文書に加え、新聞記事等、日常の活動が解る資料を用意した。

### 3 今回話題になった事項で特徴的なものとその概要

- 地域の中に学校がある。郷土の勉強をすることで、将来コミュニケーションのきっかけになる。ぜひ推進してほしい。
- スマホについては4、5年前と比べて大きく変わってきている。大人がついていけない。大人がもっと勉強する必要がある。
- 新校は地域とも大いに関わり、大学とも連携していくことが大切である。
- 構造的にすっきりした指導で成果を上げている。先生方がベクトルを合わせてやっているのが良い。
- たしかに良い子だが、エネルギー不足は中学でも感じる。中高でも連携が必要。
- 数値を求める学校ばかりではなく、3年間をとおして自分と向き合い、自分を探し、卒業する時にはしっかり目指すものが決まっている、そんな学校が存在することも豊かさなのではないか。
- 今年も生徒の活躍が沢山見られた。生徒たち、先生方の努力を改めて感じた。アンサンブルコンテストの全国出場は本当にすごい。
- 中学生は高校に入るのが目標になっており、合格したらスマホ、バイトに気がいってしまっている。高校生の保護者は学校任せになっており、将来の生き方のイメージを生徒も保護者も3年間かけてしっかり考えるべき。
- 大学も同様。入って終わりではない。入ってからが将来に向けて大切。
- 自分の子供はやりたいことが見つかって、やったらできる、できたら上に上がれるという体験ができ、中学の時とは大きく変わった。
- 大学1年生にスマホ使用時間を聞いたところ、長くて驚いた。高校生も状況は同じなのではないか。大学も高校もそのような子どもたちを相手にしていることを認識する必要がある。

### 4 成果と課題

- 様々な取組について、評議員に対して説明することは本年度の総括ともなり、次年度に向けた学校運営に関して重要な点検の機会となっている。
- 中学生、高校生、大学生の現状や指導の方向性について、評議員それぞれの視点からの意見が出され、短時間ではあったが、中身のある協議になった。